

V 都市づくりの基本的な考え方

まちづくりの課題を踏まえ、本市の目指す都市の姿や都市の骨格構造を示します。

1. 本市の目指す都市の姿

本市の将来推計人口は、2026年頃をピークに、その後ゆるやかに減少するとともに、年齢3区分別人口をみると、年少人口、生産年齢人口の減少、老年人口が増加すると予測されます。

本市の持続可能なまちづくりのために、将来を担う子育て世代が住み続けたいくなり、これまでの本市の発展を築いてきた高齢者が便利でいきいきと暮らせ、そして、これら含め全ての世代が安心安全で快適に暮らせるまちとして、駅を中心とする拠点を公共交通がつなぎ、歩いて暮らせるまちを目指します。

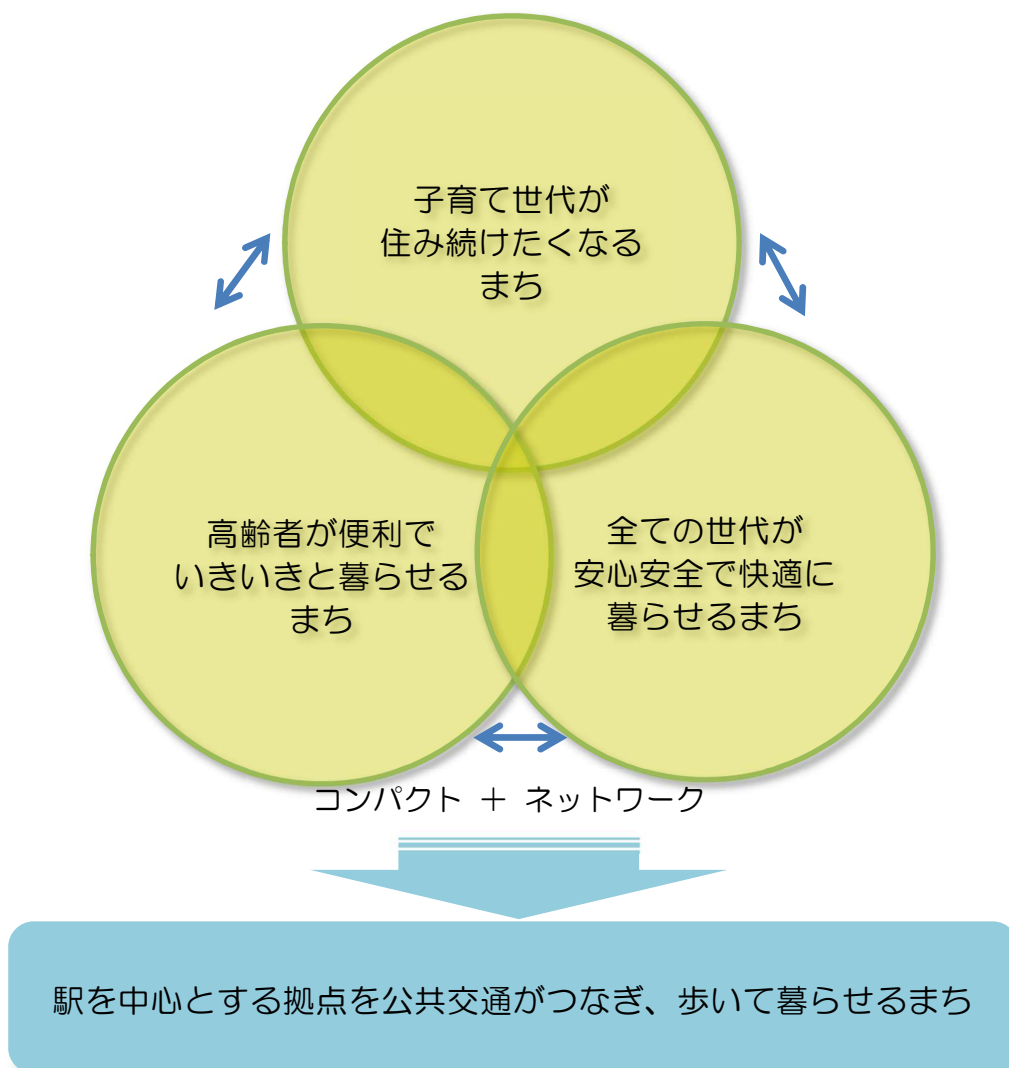


図 本市の目指す都市の姿

2. 本市の目指す都市の姿実現のための考え方

2.1. 子育て世代が住み続けたくなるまち

本市の特徴の一つである充実した公共交通網と道路網による利便性の維持や、子育て支援施設等の生活サービス施設の維持・充実や良好な環境の住宅・宅地の継続的な供給、都市の魅力向上等により、子育て世代が住み続けたくなるまちを目指します。

2.2. 高齢者が便利でいきいきと暮らせるまち

高齢者の健康寿命延伸や集いの場等となる交流施設等の維持・充実を図るとともに、これらの施設の利用や日常生活において必要となる公共交通の維持・充実を図り、市内に居住している高齢者が外出しやすく、便利でいきいきと暮らせるまちを目指します。

本市の東部には、鉄道やバス等の公共交通が弱い地域がありますが、（都）名古屋半田線を中心に生活サービス施設が立地し、将来的にも人口が維持されます。このため、この地域の生活を支える公共交通として、循環バスの維持・充実を図り、将来にわたって安心でいきいきと暮らせるまちを目指します。

2.3. 全ての世代が安心安全で快適に暮らせるまち

子ども、高齢者、障害者をはじめ、全ての世代が安心安全に暮らせるよう、各種生活サービス施設の維持・充実、鉄道、路線バス、循環バス、タクシーといった公共交通の維持・充実や災害の危険性の少ない安全な地域への居住誘導等、将来にわたって安心して暮らせる環境の確保により、安心安全で快適に暮らせるまちを目指します。

特に新駅周辺は、生活サービス施設の評価が低い状況ですが、駅の利便性や核となる医療施設を利用し、本市の拠点となるよう生活サービス施設の維持・充実を図ります。

2.4. コンパクト+ネットワークによるまちづくり

各世代がともに住み続けられるまちを形成していくためには、社会全体として人口減少が進むことを踏まえ、利便性の高い市街地を形成し、本市への定住化を促進していくことが求められます。このため、福祉、教育関連分野との連携や公共施設の再編等を見据えながら、商業施設、医療施設、子育て支援施設、介護福祉施設といった生活サービス施設の維持・充実、さらに各種施設が利用しやすいよう公共交通の相互連携やネットワークの充実を目指します。

また、東海市都市計画マスタープランに位置付けた各拠点と軸から、福祉、教育等の関連分野との連携や公共施設の再編等も加味し、（都）名古屋半田線沿道での生活サービス施設の維持・充実等を含めた都市の骨格構造を示します。

さらに、福祉、教育等の関連分野との連携や、公共施設の再編等も見据えながら、コンパクト+ネットワークによるまちづくりを推進し、都市拠点、地域拠点、交通結節点（連携ポイント）といった駅を中心とする拠点を公共交通がつなぎ、歩いて暮らせるまちの実現を目指します。

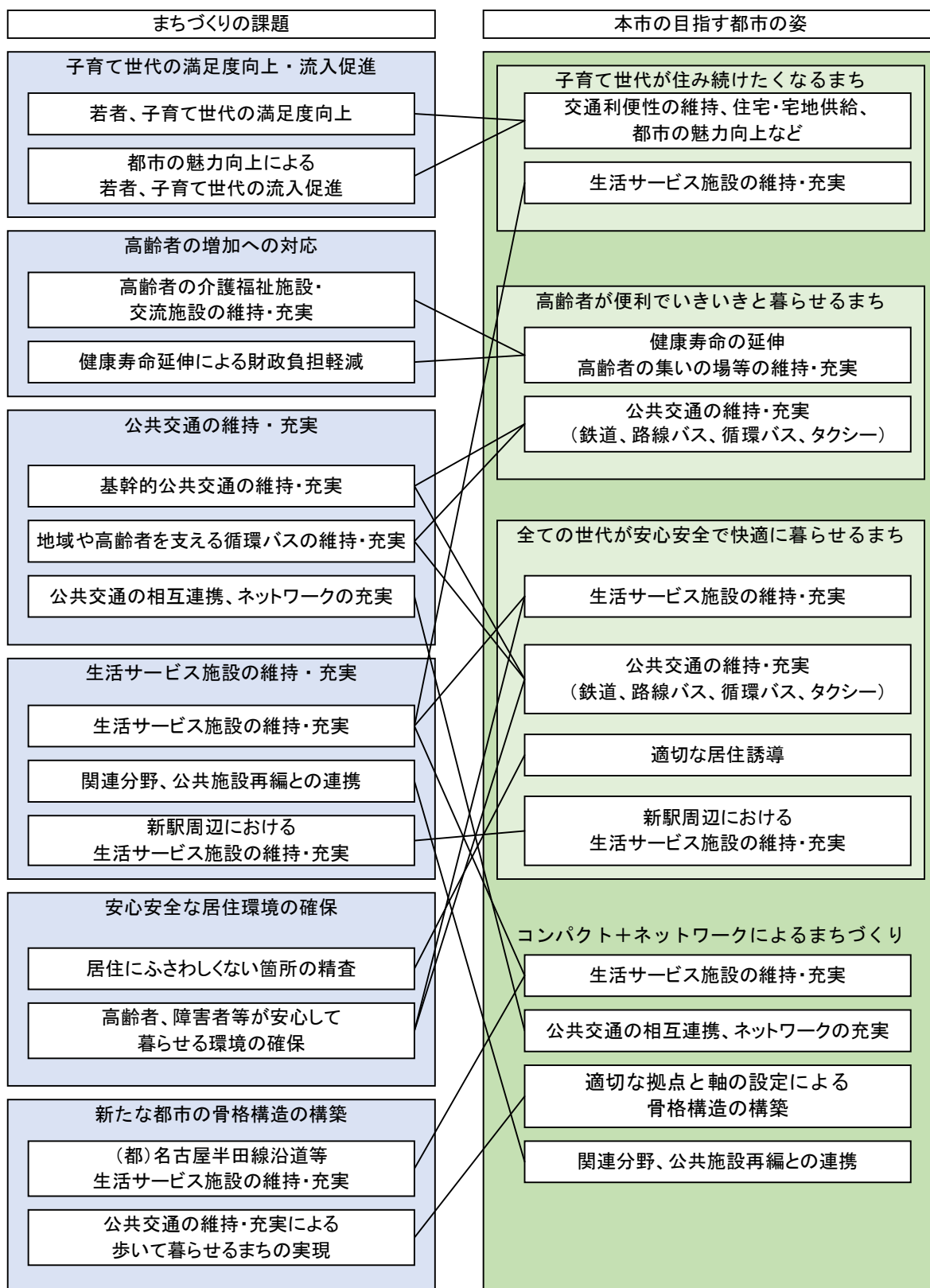


図 まちづくりの課題と本市の目指す都市の姿の対応

3. 都市の骨格構造

3.1. 拠点と軸の位置付け

(1) 拠点の位置付け

本計画で位置付ける拠点は、本市の目指す都市の姿を実現するために必要な拠点であり、東海市都市計画マスタープランに位置付けた拠点から構成し、以下に示します。

(2) 軸の位置付け

本計画で位置付ける公共交通軸は、先に位置付けた拠点をつなぐネットワークの役割を担います。また、市の東部には鉄道やバス等の公共交通が弱いにも関わらず（都）名古屋半田線沿道に市街地が形成されていることから、これら地域の生活サービス施設の維持・充実のため地域生活軸を位置付けます。

本計画での位置付け	種別
生活サービス施設をはじめ、複合型文化施設や大学等、都市機能の集積、公共交通の結節点等を生かし、本市の中心として商業、業務、文化、教育等、様々な都市機能の強化を図る拠点として位置付けます。	都市拠点
公立西知多総合病院と新駅の利便性を生かし、病院利用者や居住者に利便性の高い生活サービス施設の維持・充実、公共交通の機能強化を図る拠点として位置付けます。	保健医療福祉拠点
太田川駅西側において商業、文化等、広域的な交流を図る機能集積の拠点として位置付けます。	広域交流拠点
本市の中核的な福祉関連施設が立地している現状と駅周辺としての利便性を生かし、今後の高齢化への対応を見据えた健康・福祉の維持・充実を図る拠点として位置付けます。	健康福祉拠点
駅周辺として利便性の高い公共交通機能を生かし、地区の中心として居住、商業、生活サービス施設の維持・充実を図る拠点として位置付けます。	地区拠点
行政施設（市役所）を生かし、現有機能の維持・利用増進を図る拠点として位置付けます。	行政拠点
各拠点をネットワークさせ、今後の高齢化を見据えた公共交通の維持・充実を図る軸として位置付けます。	公共交通軸
地域の日常生活を支えるため、身近な生活サービス機能の維持・充実や循環バスを含めた公共交通の維持・充実を図る軸として位置付けます。	地域生活軸

3.2. 都市の骨格構造

本計画で定めた拠点と軸による都市の骨格構造を示します。鉄道沿線の拠点を公共交通軸で接続するとともに、(都)名古屋半田線等を関連付けた地域生活軸で接続します。

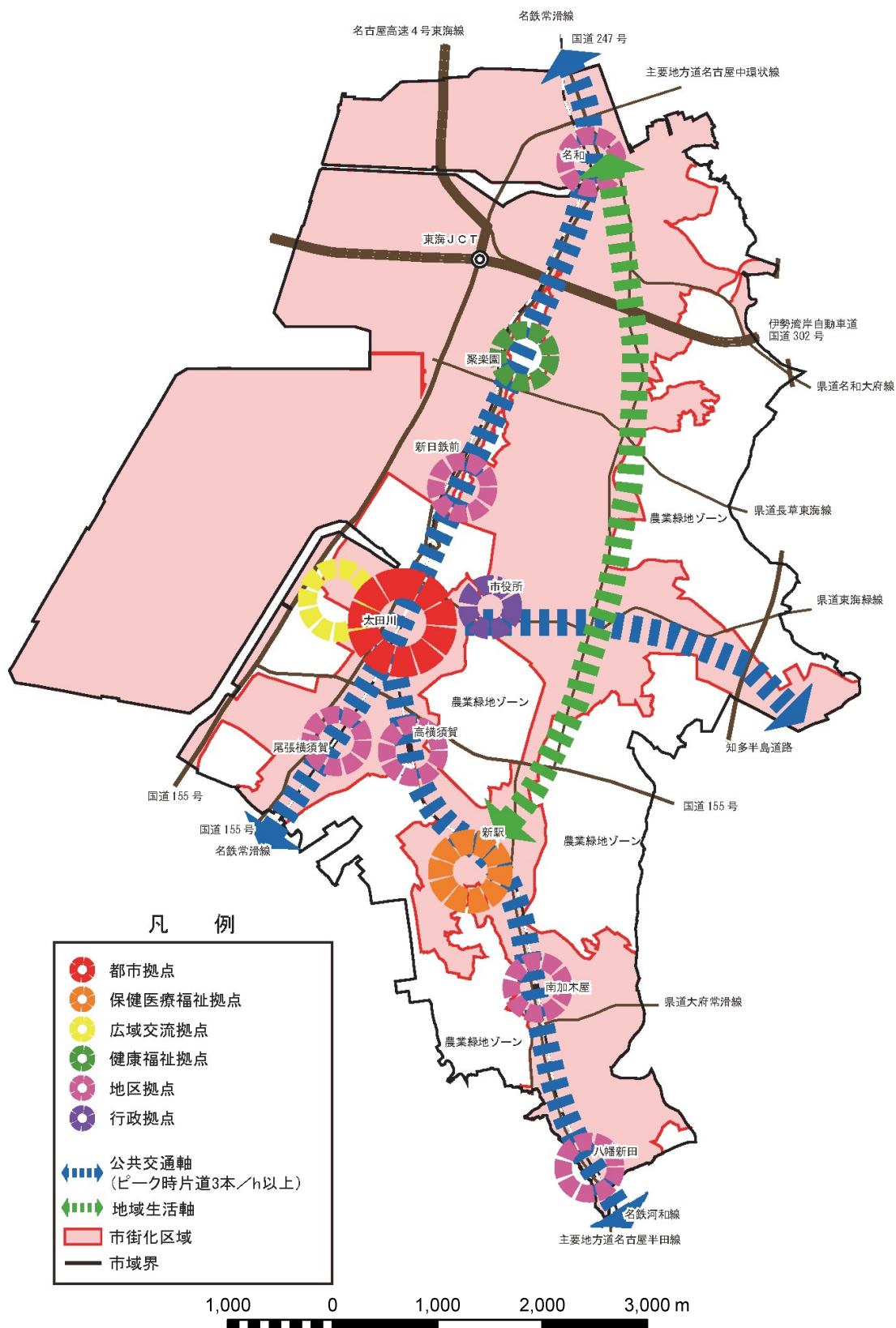


図 都市の骨格構造